

令和元年度

事業報告書

社会福祉法人長岡東山福祉会

令和元年度社会福祉法人長岡東山福祉会重点施策及び運営方針に基づき、次の事業を実施した。

【社会福祉法人長岡東山福祉会本部事業】

事業運営の成果

(1) 理事会の開催状況

開催日	出席者数	議案
6月4日	理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について（報告） ・ 平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会支出予算の流用について ・ 平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業報告及び決算、並びに監査報告について ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会身体的拘束等適正化のための指針の制定について ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会理事及び監事の任期満了に伴う改選について ・ 定時評議員会の招集について
6月19日	理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会理事長及び業務執行理事の選定について ・ ND ソフトウェア「NEXT 介護システム」更新及びパソコン入替整備に伴う入札執行等について
12月24日	理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について（報告） ・ 特別養護老人ホームかつぼ園の省エネ化等大規模修繕の経過について（報告） ・ (株)川原経営総合センターとの顧問契約における指導の進捗状況について（報告） ・ デイサービスセンターかつぼ園の増築及び既存センターの改修工事等の進捗状況について（報告） ・ 令和元年度社会福祉法人長岡東山福祉会第1次補正予算について
3月26日	理事6/6名 (監事2/2名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長並びに業務執行理事の職務の執行状況について（報告） ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会介護職員等特定処遇改善加算支給の方針について（報告） ・ 民法改正による就業規則及び介護施設における契約書の一部改正について（身元保証人に関する事項）（報告） ・ 令和元年度社会福祉法人長岡東山福祉会第2次補正予算について ・ 令和2年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業計画並びに当初予算について ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会就業規則の全文改正について ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等就業規則の全文改正について ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会給与規則の全文改正について ・ 社会福祉法人長岡東山福祉会準職員等給与規則の全文改正について ・ 特別養護老人ホームかつぼ園介護老人福祉施設運営規程の一部改正について

開催日	出席者数	議案
		<ul style="list-style-type: none"> ・短期入所事業かつぼ園短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護運営規程の一部改正について ・デイサービスセンターかつぼ園指定通所介護・介護予防通所サービス運営規程の一部改正について ・長岡市デイサービスセンターふそき指定通所介護・介護予防通所サービス運営規程の一部改正について ・長岡市デイサービスセンターふそき指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について ・特別養護老人ホーム花の里かつぼユニット型地域密着型介護老人福祉施設運営規程の一部改正について ・グループホーム花の里かつぼ認知症対応型共同生活介護（介護予防認知症対応型共同生活介護）運営規程の一部改正について ・社会福祉法人長岡東山福祉会慶弔規程の一部改正について

（２）定時評議員会の開催状況

開催日	出席者数	議案
6月20日	7/7名 (理事1名)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度社会福祉法人長岡東山福祉会事業報告及び決算、並びに監査報告について ・社会福祉法人長岡東山福祉会理事及び監事の選任について ・平成31年度（令和元年度）社会福祉法人長岡東山福祉会事業計画並びに当初予算について（報告） ・社会福祉法人長岡東山福祉会中期計画について（2019年4月～2021年3月）（報告） ・特別養護老人ホームかつぼ園の省エネ化等大規模修繕について（報告） ・(株)川原経営総合センターとの経営コンサルタント顧問契約について（報告） ・デイサービスセンターかつぼ園の増築及び既存センターの改修工事について（報告）

（３）法人本部の取り組み

- ・法人の将来を見据え、職員の成長と、サービスの質の向上を目的とした人事・給与制度の改正のため、川原経営総合センターを交え会議を重ね、給与設計や諸手当の改正を実施した。職員には改正の趣旨や内容について理解を求める場を複数回持ち、丁寧な説明の実施に心掛けた。
- ・特別養護老人ホームかつぼ園の空調・給湯等の大規模改修を実施した。今後省エネの効果が期待される。あわせてかつぼ園2階部分を増築し、新たにデイサービスセンターかつぼ園を移転した。プライバシーに配慮し、利用者の自立支援がより達成できるような設計とした。
- ・事務局会議を定期的で開催し、法人運営に係る事項について協議を行った。また各部署の管

理監督者が事業所運営するための年間アクションプランを作成し、毎月運営会議（施設部門・居宅部門）において評価、検討を実施した。

- ・職員の資質向上に向けて人事考課制度を継続し実施した。評価の方法や管理職の負担等課題も多く、令和2年度に制度の見直しを行う予定とする。

（４）専門委員会

① 人材育成委員会

今年度は人員不足の部署の参加率が低く、伝達研修を実施し職員全員に内容を伝えた。また、3拠点がそれぞれに研修資料を作成していることで、準備に係る負担や内容の統一が図れないことが課題であったため、次年度以降は改善に取り組むことにした。

＜資料＞ 研修内容

開催月	定期研修	職種別研修
4	平成31年度事業計画の説明	
5	食中毒の予防・感染症予防に関する基礎知識 (感染対策委員会主催)	
6	緊急時の対応（各部署に合わせた内容）	
7	個人情報保護とプライバシー保護について 接遇研修（人材育成委員会主催）	
8	救急救命講習（看護職員主催）	痰の吸引研修（特養介護職員）1回目
9	介護保険の基礎知識	事務職員研修 1回目
10	感染性胃腸炎・インフルエンザなどの感染症 予防対策について（感染対策委員会主催） 身体拘束廃止について（委員会主催） ターミナルケア研修（係長主催）	栄養士研修 介護支援専門員研修
11	リスク管理研修	事務職員研修 2回目
12	身体拘束廃止について（委員会主催）	看護職員研修 相談員研修 キャリアパス初任者コース研修 キャリアパス管理職員研修 キャリアパス中堅職員研修
1	認知症ケア研修	キャリアアップリダー職員研修 事務職員研修 3回目
2	褥瘡予防ケア研修 メンタルヘルス研修（労働衛生委員会）	痰の吸引研修（特養職員）2回目 介護職員研修
3		新人フォローアップ研修

② 法人防災委員会

4月採用時研修として採用者に防災基礎研修を実施し、防災・減災に対する基本的な心構え等の意識向上を図った。また、8月は新採用職員を対象に消火器取扱い講習会及び実技訓練を実施し初期消火活動への理解を深めた。

③ 入所検討委員会

年6回開催した。今年度の待機者の傾向として、家庭からの虐待による特例入所や独居にて長期間ショートステイを利用され在宅サービスが受けられない方、前年度と同様に病院や老人保健施設から退院・退所を勧められたとの理由から入所を申し込んだ要介護4、5の方が多かった。また、上位待機中の方が他界及び他施設入所による取り下げも多かったが、月平均10人（合計116人）の入所申込があり、待機者は前年度と同じ200名程度となった。

④ サービス向上委員会

入所者（利用者）及び家族による満足度調査と職員の自己評価の実施分析を行い、改善すべき事項をアクションプランや事業所の目標に掲げて取り組んだ。年々回収率が下がっていることから、居宅サービス事業所については、調査表の配布や回収を職員が直接ご利用者やご家族とコミュニケーションを取りながら行った。それにより若干ではあるが回収率が向上した。

⑤ 広報委員会

ホームページの再構築に取り組み、当法人の強みである『地域とのつながり』や『地域福祉への貢献』のアピールや、当法人の働きやすさの特徴並びにスタッフ紹介・介護の仕事体験等を出すことで、より法人の特徴が分かりやすくなるよう努めた。

また、広報『東山通信』（年3回発行）はサービスご利用者やご家族が主な対象者であることから、各事業所の日ごらの活動が伝わるように写真を多く掲載する等、楽しく見ていただけるよう工夫をした。

⑥ 納涼祭実行委員会

昼の部では夏祭りらしい提灯や屋台で演出し、神輿や射的・くじ引きで職員が盛り上げ利用者に楽しんで頂いた。また、夜の部では250名を超える来場があり、山本中学校吹奏楽部をはじめ悠久太鼓、子供ジャンケン大会、新人職員よさこいソーラン踊り、大抽選会がステージを盛り上げ、屋台・縁日も大盛況であった。フィナーレを飾る恒例のナイアガラ花火を会場の皆さんで観賞し楽しんで頂いた。

(5) 職員の動向

退職者が多い年となったが、半数近くは入職して1年未満の就労期間であった。要因は多様であるが、就労後のフォロー体制の強化が課題としてあがった。

産休・育休者及び復帰後の時短職員も多いことから、特に夜勤職員の人材不足が大きい経営課題である。資格取得については、介護福祉士の資格取得率は非常に高く、介護支援専門員についても受験者は増え確実に成果が出ている。

<資料>

① 採用者・退職者数

単位：人（実数）

雇用形態	採用者数		退職者数	
	正規・準	パート	正規・準	パート
R1年度	12	4	16	2
30年度	14	4	10	4

② 資格保有状況 (R2. 3. 31 現在)

単位：人（実数）

区分	かつぼ園	福祉センター ふそき	ケアセンター 花の里	合計
総職員数	97	49	46	192
介護福祉士	62	26	30	118
社会福祉士	3	8	2	13
看護師	5	5	1	11
准看護師	3	2	2	7
管理栄養士	1	0	1	2
介護支援専門員	12	13	5	30

*介護支援専門員は有効期限内の職員のみ

(6) 地域連携等に関すること

① 花華クラブ

- ・会員本人の体調不良や、ご家族の介護のために参加できない方が増えて、1回あたりの参加人数が10人を下回ることも増えている。このため、以前より1回の活動でできる作業量が減り、予定内容が終わらないこともあった。
- ・ケアセンター花の里かつぼ開設時からのハーブ花壇の作り直しに着手し、今年度はコキアやノケイトウ等、数種類の花を種から育てた。次年度以降は、周囲のユニット花壇との調和を見ながら品種を選定することになった。
- ・会員の高齢化や、それに伴う参加人数の減少傾向は課題であるが、グループホーム花の里かつぼご利用者や職員の参加が定着してきており、ケアセンター花の里かつぼでは欠かせない活動である。今後の運営については、講師・会員の意向も取り入れながら検討したい。

② レインボー健康体操

- ・指導資格保有に必要な単位数を計画的に取得して知識と技術の向上を図り、介護予防及び地域貢献体制の維持と参加者の安全確保に努めた。
- ・ふそき定例教室は空調設備のない場所を会場としていることから、夏期はふそき内での会場変更・開催回数削減・人数制限により熱中症予防に積極的に取り組んだ。その間、通常どおり毎週開催している花の里かつぼ定例教室にも足を運ぶ参加者がおられ教室の選択肢が増える一面が見られた。冬期（12月・1月）は小雪により昨年度比119%の参加があり、広報や口コミによる新規参加はこれまでと変わらず続いている。
- ・花の里かつぼ定例教室の実施回数は前年度比3回減だが参加者数は1.3%増加した。ふそき定例教室の熱中症予防対策により夏季期間ふそき参加者が花の里にも参加したことが主な要因。
- ・イベントは昨年に引き続き「大運動会」を行った。目的とした参加者間の交流と日頃の運動成果の発揮を十分に達成した。
- ・「体力測定」は上記大運動会と同日としたこともあり過去最高の参加をいただき、昨年度比では183.3%であった。個人ごとの前回データとの比較は、健康増進意欲とモチベーションの向上につながったものと思われる。

- ・2月末日からの定例教室及び外部団体への講師出向は、新型コロナウイルスの感染予防を図り中止した。このことにより例年3月に行う懇親会と参加回数表彰も中止となった。

<資料>

ケアセンター花の里かつぼ

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	R1年度	30年度	R1年度	30年度		R1年度	30年度	R1年度	30年度
4	4	4	42	38	10	3	3	23	32
5	3	3	31	23	11	4	4	38	41
6	4	4	41	43	12	4	4	41	40
7	4	4	57	34	1	3	3	33	34
8	4	4	51	39	2	3	4	34	47
9	4	3	58	37	3	0	3	0	35
合 計						40	43	449	443

高齢者センターふそき

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	R1年度	30年度	R1年度	30年度		R1年度	30年度	R1年度	30年度
4	4	4	116	114	10	3	3	78	83
5	5	4	125	96	11	5	5	152	114
6	4	5	105	143	12	4	4	119	101
7	2	4	30	95	1	4	4	119	99
8	2	5	27	94	2	3	4	88	97
9	2	4	26	107	3	0	5	0	116
合 計						38	51	985	1,259

近隣地域老人会等

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	R1年度	30年度	R1年度	30年度
美園友美会（川崎地区）	8	11	165	234
東栄・琴平 地域の茶の間（川崎地区）	2	2	28	21
愛宕 地域の茶の間（川崎地区）	4	3	33	21
稽古町 地域の茶の間（川崎地区）	3	4	19	32
若葉会（川崎地区）	11	10	175	158
さくら会（千手地区）	10	11	70	94
むら茶屋（新組地区）	3	1	33	17
楽天茶屋（新組地区）	1	1	16	17
福茶屋（新組地区）	3	1	44	15
新保2丁目福祉部会（新保地区）	1	2	23	41
新保3丁目福祉部会（新保地区）	0	1	0	6
新保4丁目福祉部会（新保地区）	0	2	0	34

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	R1 年度	30 年度	R1 年度	30 年度
シルバーハウジング稲葉	0	10	0	11
稲保はつらつ会（稲保地区）	7	21	30	108
加津保楽生会（山本地区）	1	0	18	0
乙吉宮路高砂会（山本地区）	0	4	0	35
亀崎町有志サークル（山本地区）	22	23	134	201
はつらつ広場（栖吉地区）	11	12	195	196
宝町内会（黒条地区）	5	6	45	45
合 計	92	125	1,028	1,286

その他

団体名	実施回数		延べ参加人数	
	R1 年度	30 年度	R1 年度	30 年度
レインボー花の里・ふそき教室参加者懇親会	0	1	0	21
” 体力測定	1	1	33	18
” 大運動会	1	1	32	29
合 計	2	3	65	68

③ 花壇イベント

今年度も春と秋の年2回開催することができた。近隣地域の方々の参加が定着したほか、スターバックスコーヒー等の企業ボランティアとも交流を重ね、充実したイベントを開催することができた。また、活動中に降雨に見舞われることがあったが、気象の状況に合わせてながら活動時間や活動内容を縮小して実施した。秋イベント時の豚汁・おにぎり提供は「いつもおいしい」との意見も聞かれ好評であった。一方、参加活動者の多くが高齢化し、かつ参加人数が減少傾向にあることから、マンネリ化が課題である。

花壇イベント 参加人数

	時季	参加人数	時季	参加人数	合計
R1 年度	春	58	秋	39	97
30 年度	春	62	秋	45	107

④ 講師派遣（アクティビティ、フラワーアレンジメント、介護保険講義、栄養講義等）

派遣先団体名	実施回数		延べ参加人数	
	R1 年度	30 年度	R1 年度	30 年度
桂寿会（山本地区）	5	7	66	103
北陸福祉保育専門学院介護福祉学科	2	2	5	14
なかよし元気会（富曽亀地区）	3	12	17	89
ひまわりの会（新保地区）	9	12	75	115
宝町内会（黒条地区）	3	3	40	38
合 計	22	38	203	388

(7) その他

① 介護予防教室「お元気学校」 *実施会場 ケアセンター花の里かつぼ

今年度は定員 15 名でスタートしたが、状態悪化により介護サービスを利用される等 4 名退校されたが、新たに 1 名の新入生を迎え、後期は 12 名の参加者だった。開校時の参加者の目標に多い「家に閉じこもることなく、元気で毎回休まずに参加する」を達成するため、体操やミニ遠足、作品作り等、内容を工夫して実施した。特にミニ遠足は人気があり工場見学等も実施した。今年度は新型コロナウイルス感染対策により 3 月を休校とした。

お元気学校参加人数

実施回数		延べ参加人数	
R1 年度	30 年度	R1 年度	30 年度
18	20	196	209

② 介護体験教室

夏休みの恒例企画として 7 月 30 日に、職員家族の小学 1 年～中学 2 年生の 9 名の参加にて実施した。デイサービスでレインボー体操を体験したり、紙芝居の読み聞かせをしてもらったり等、ご利用者との微笑ましいふれあいができた。また、お茶配りを手伝ってもらい一緒に喫食をしたが、孫を思い出し涙ぐむご利用者もおられた。初めて参加した小学生を、参加経験のある中学生が面倒をみってくれる場面もあり、また親の働く職場で体験した子供達から「また来たい。お茶配りならお手伝いできそう。」と感想が寄せられた。

③ 新型コロナウイルス感染症予防対策等について

今年度後半は新型コロナウイルス感染症の全国的な流行を受けて、日々変化する情勢にあわせ、法人としてその都度法人事業や各事業所の感染予防対策、並びに利用者への対応等について通知を出し、職員への周知徹底を図った。入所施設については、面会の制限を行ったが、ご家族に対して、ご利用者の生活状況等をこまめに電話や文書等でお知らせするような対応をとった。また、マニュアルを整備するとともに、不足するマスクや消毒液等について、関係機関や業者に手配し、発生時に備えて備蓄する等の対策を図った。

【拠点・特別養護老人ホームかつぼ園】

1. 事業運営の成果

(1) 事務課

- ・育成プログラム検討会を実施し、今まで確立していなかった育成計画を1年目まで確立することができた。その先の基準を整えていくことを来年度の課題として継続していく。また、課内研修では、より理解したい事項の聞き取りを実施してテーマにしたことで理解を深めることができたが、配属事業所によって理解の差があることが分かった。
- ・事務処理マニュアルの見直しを行い、他事務員が対応できるように整えた。新たなマニュアル等についても来年度継続していく。
- ・中期計画に沿った目標稼働率と実績稼働率の比較分析を行い、稼働率や利用状況に意識をもつことができた。
- ・接遇については自己評価を実施し振り返りを行った。また、ボランティア活動に積極的に参加し、交流を深めることでより良い接遇に努める意識をもつことができた。

(2) 施設サービス課（特別養護老人ホームかつぼ園）

- ・職員、入所者共に感染予防を強化し健康管理に取り組んだ。その結果職員、ご利用者の感染発症は1人もなく、インフルエンザ感染や感染性胃腸炎の発症及びまん延を防ぐ事ができた。入退所については37名の退所者があり、昨年度よりも11名多かった。速やかに新規入所者の受け入れを行うために相談員・看護師・介護支援専門員が協力して事前調査を行い、細かな情報収集とスムーズな入所の受け入れを行う事ができ、目標稼働率（99.3%）を達成することができた。

① 1・2係

- ・4月より専任の機能訓練指導員を配置した事で、1人ひとりのニーズに合わせた個別機能訓練の実施や集団リハビリの充実が図れ、身体機能の維持や自立支援、重度化防止に繋がる取り組みが行えた。年度途中で機能訓練指導員が退職し加算算定は行えなくなったが、いつでも再開できるように取り組みは継続し対応を行った。
- ・日頃からフィジカルアセスメントの視点を持ち、身体状況の把握と共に褥瘡予防に重点を置き取り組みを行った。中でも排泄用品の適切な使用方法について外部講師を招いて研修を実施し、また理学療法士の指導のもと褥瘡予防の除圧ポジショニング方法を学んだ。その他にも個別にスキンケアの取り組みを実施したことで褥瘡を発症された方はいなかった。また排泄使用物品の個別の見直しを毎月行う事でコスト削減に繋がった。
- ・利用者やご家族が安心できる看取りケアを継続できるよう、他職種協働で寄り添い一緒に看取りケアを行う事ができた。入所時は延命治療を望まない意向であったご家族の中には、いざ終末期の状態になるとその診断を受け入れる事ができない方もおられ、その揺れ動くご家族には意向に沿って対応を行い、感謝の言葉をいただくことができた。
- ・地域の保育園児、浦瀬小学校4年生の総合学習の受け入れ、花の手入れ等地域のボランティアの受け入れにより、地域の方々との交流が図れた。
- ・専門職としての知識や技術の向上を図る為、外部研修の参加計画を立てたが、職員不足によ

り参加する事が困難だった研修もあった。認知症の重度化による対応や、不適切なケアを予防するためにも事業所内研修を行い、伝達研修も徹底し全員に周知する事ができ、職員の知識向上またはストレスの軽減等に繋げることができた。

- ・職員の働きやすさや働きがいの向上を目指し、業務の改善、効率化を図る事ができた。しかし、人材不足により時間外勤務の大幅な削減は難しかった。年次有給休暇については、部署を超えて協力体制を図ることで、課内の職員全員が年間5日間以上の取得が実施できた。

② 医務係

- ・利用者の身体状況、生活状況を把握し、主治医と協力病院と連携を図りながら、本人及び家族の望む対応を実施できた。また、日常のケアに対して安心安楽な生活を送れるよう、介護職員等との情報交換を密に行う等、他職種との連携を図ることができた。
- ・全職種で感染症防止の話し合いを持ち、準備や対応に取り組んできたことで、利用者への感染症の発生や拡大を防ぐことができた。
- ・医師との連携を図り、入所者本人や家族の意向にそったケアと、最期まで穏やかで安心できる看取り介護を実践できた。
- ・職種別研修では口腔ケアの重要性をテーマに実施し、職員の質の向上に努めた。

③ 給食係

- ・看取り支援の一環として、アイスクリームやプリンなどの口当たりの良いものを提供し、最期まで口から食べる楽しみを感じられるよう、食事面から支援を行った。
- ・低栄養の予防・改善を目標に、入所者一人ひとりにあつた栄養ケアマネジメントを行った。また定期的に見直しを行い、利用者の栄養状態の把握に努めた。
- ・利用者の重度化により、離床が難しい方、疲れやすく全量摂取が困難な方に対して、食事配膳時間の調整、食事内容の検討を行い、負担のないよう個々の身体状況に合わせた食事提供を行った。
- ・利用者から喜ばれる、楽しみのある食事提供として、委託業者と連携し季節に合わせた行事食、バイキング、大手外食チェーン店とのコラボ給食、都道府県巡りのご当地献立を実施した。

資料1 <入所者の状況>

① 入退所状況

単位：人（実数）

状 況	入所前の状況					合 計
	在 宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病 院	法人グルー プホーム	
R1 年度	5	9	14	6	2	36
30 年度	16	3	4	8	0	31

退所の状況					
状況	在宅	施設で死亡 ※1 ()	協力病院 入院中死亡	病院等へ入院 のため退所	合計
R1年度	0	36 (29)	1	0	37
30年度	0	24 (21)	1	1	26

※1 () ターミナルケア計画に基づき、施設内で看取りを実施した数

② 年度末介護度別数

単位：人（実数）

介護度 年度	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
R1年度	1	1	16	39	47	104
30年度	1	3	14	52	34	104

③ 月別利用数

単位：人（延べ数）

R1年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	3,099	3,206	3,056	3,190	3,214	3,115		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	3,180	3,129	3,191	3,198	2,998	3,218			
30年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	2,989	3,086	2,968	3,049	3,206	3,108		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	3,196	3,101	3,215	3,209	2,874	3,210		

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

R1年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	366	715	4,512	15,315	16,891		
30年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	365	1,094	5,532	17,177	13,043		

⑤ 日常生活動作（令和2年3月31日現在）単位：人（実数）

生活動作尺度	区分	R1年度	30年度
移動	独歩	2	2
	介助・介助具使用	10	11
	車椅子	92	91
食事	自立	46	54
	見守り	0	0
	一部介助	21	22
	全介助	33	23
	経管栄養	4	5

生活動作尺度	区 分	R1 年度	30 年度
排 泄 (日 中)	トイレ 自立	10	9
	一部介助	21	23
	全介助	5	3
	ポータブルトイレ・自立	1	3
	一部介助	3	2
	全介助	0	0
	オムツ	61	61
	フォーレ	3	3
入 浴	一般浴	18	20
	座浴	24	21
	特浴	61	63

⑥ 食事形態 (令和2年3月31日現在) 単位：食(実数)

主食		副食	
米飯	15	普通	16
粥	44	刻み	12
粥ミキサー	32	小刻み	13
パン粥	8	超刻み	21
経管栄養	5	ミキサー	32
		ムース	5

資料2 <余暇活動等>

① 余暇活動の実績

単位：人

月	余暇活動内容	参加人数
4	花見ドライブ	4
	ふれあいタイム	13
	映写会	16
	喫茶	47
5	すこやかともしび祭作品作り	6
	おはぎ作り	8
	ふれあいタイム	42
	喫茶	46
6	すこやかともしび祭作品作り	6
	七夕飾り作り	6
	ふれあいタイム	7
	映写会	27
	歌謡ショー	36
	喫茶	46

月	余暇活動内容	参加人数
7	風船バレー	9
	カラオケ大会	47
	喫茶	47
8	盆供養会	41
	すいか割り大会	43
	すこやかともしび祭作品作り	7
	カラオケ	34
	喫茶	45
9	すこやかともしび祭作品作り	9
	おはぎ作り	9
	すこやかともしび祭見学	3
	敬老会	48
	風船バレー	13
	喫茶	56
10	大運動会	25
	喫茶	51
11	外出ドライブ	3
	カラオケ	29
	映写会	12
	喫茶	51
12	風船バレー	7
	歌謡ショー	49
	喫茶	43
1	新年会	51
	絵馬づくり	64
	映写会	18
	喫茶	47
2	節分	29
	喫茶	48
3	風船バレー	14
	喫茶	58
合 計		1,320

② クラブ活動の実績

クラブ名	実施回数	延べ参加人数
調理クラブ	3	21
書道クラブ	10	93
歌謡クラブ	20	556
生け花クラブ	10	103
合計	43	773

③ 特養花華クラブ参加状況（家族協力会協賛）

単位：人（延べ数）

月	実施回数	参加人数		内 容
		入所者	家族	
6	1	12	12	夏のプランター作り
7	1	12	10	風鈴短冊作り
8	1	12	1	モイストポップリ
9	1	12	7	野沢菜の種まき
10	1	12	8	秋のプランター作り
11	1	12	10	花華カレンダー作り
12	1	12	6	葉ボタンの植え付け
合計	7回	84	54	※4・5・1・2・3月は実施なし

（3）施設サービス課（短期入所事業かつぼ園）

- ・昼食前に行っている軽体操とお口の体操を兼ねた歌の会は、ご利用者の日課として定着して行えた。また裏庭の畑で育てた枝豆を納涼祭で、来客の皆さまに食べていただいた。畑作業に関わったご利用者から、収穫の喜びと満足感が得られ喜ばれた活動だった。
- ・入退所の送迎時や、サービス利用中に家族及び利用者意識してコミュニケーションを図るよう申し合わせたことで職員の意識もより高まり、ニーズの的確な把握ができ、それをサービス提供に反映することができた。
- ・4月より看護職員が専任で配置されたことにより、利用者の体調の把握や対応について職種間の情報の共有がスムーズに図れたことで、サービスの質の向上につながった。
- ・介護職員の人員配置が減ったが、施設サービス課内でお互いに協力を得ることができる体制が定着し、年休の取得や突発的な事態にも対応ができた。
- ・利用者の定着の促進と稼働率向上のため、利用者の状態及び空室状況等について居宅介護支援事業所等関係機関に情報提供を実施し、新規の居宅事業者からの依頼も増えた。家庭状況に合わせ、利用者や家族のニーズに柔軟に対応して受け入れを行った。しかし、長い期間利用された方が法人の特養等に入所されたり、感染症発症者の対応のため、利用を控えてもらう等対応し、収益が下がった。年度末は新型コロナウイルス感染症の全国的な発生の影響もあり、減収となった。

資料<利用者の状況>

① 市別利用数

単位：人・日（延べ数）

年度	長岡市		見附市		合計	
	人数	日数	人数	日数	人数	日数
R1 年度	1,059	6,809	70	637	1,129	7,446
30 年度	1,229	7,513	32	364	1,261	7,877

② 月別利用数（ ）内は予防短期入所生活介護利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	546 (12)	618 (18)	590 (19)	662 (19)	652 (11)	561 (16)		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	639 (15)	656 (11)	621 (7)	629 (0)	586 (0)	545 (13)			
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
R1 年度	人数	605 (23)	660 (19)	677 (14)	683 (14)	614 (13)	623 (17)	7,706 (171)	101.8%
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	599 (10)	674 (11)	672 (10)	644 (10)	607 (16)	648 (14)		

③ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	141	457	1,581	2,075	1,623	1,569		
30 年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	171	687	1,432	2,572	1,306	1,709	7,877	3.25

(4) 在宅サービス課（デイサービスセンターかつぼ園）

- ・新規利用者獲得と稼働率向上のため、居宅介護支援事業所を訪問し空き情報・行事等の案内も含め、事業所のPRを行ったが、夏場に体調不良、また冬期間は感染症でのキャンセルや新型コロナウイルスの影響で利用を控える方もあり、利用登録者数及び利用延人数が大きく減少し、稼働率低下へ繋がった。
- ・個別機能訓練へのニーズが高い状況にあり、全体の6割の方が参加され、また訓練を楽しみにされている方も多くなっている。そのため、個別機能訓練加算算定額が前年を大きく上回ることができた。
- ・利用者への連絡帳を手書き様式からソフトを利用した様式へ変更し、連絡帳作成の時間短縮を行うことができた。今後も書類等を管理しやすいよう見直しを行い、更なる時間短縮・年次有給休暇取得へ繋がられるような業務改善を行っていく。

資料＜利用者の状況＞

① 登録者数

単位：人（実数）

区分 年度	長岡市	見附市	合計
R1年度	88	3	91
30年度	116	4	120

② 利用者数

単位：人（延べ数）

区分 年度	長岡市	見附市	合計	稼働日数	1日あたり 平均人数
R1年度	7,732	148	7,880	365	21.6
30年度	8,124	140	8,264	364	22.7

③ 月別利用数

（ ）内は予防通所サービス利用数

単位：人（延べ数）

R1 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	638 (30)	643 (32)	645 (33)	660 (33)	653 (36)	627 (28)		
月	10	11	12	1	2	3			
人数	625 (18)	605 (36)	630 (38)	567 (40)	569 (44)	611 (39)			
30 年 度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	人数	619 (53)	646 (57)	636 (60)	658 (62)	637 (56)	662 (45)		
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	702 (37)	655 (35)	671 (30)	624 (22)	590 (29)	651 (27)		

④ 介護度別利用者数

単位：人（延べ数）

R1 年 度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	407	1,296	2,597	2,059	948	573		
30 年 度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	513	1,755	2,544	2,036	894	522		

⑤ 行事計画

単位：人(延べ数)

月	行事計画	参加人数
4	お花見ドライブ (原町公園・福島江)	48
5	ジャガイモ植え付け 新緑ドライブ (見附イングリッシュガーデン)	5 50
6	北地域図書館外出	2
7	梅干し・梅ジュース作り	24
	買物ツアー (社会参加：ローソン)	21
	粉ふき芋作り	21
8	法人納涼祭	22
	デイ夏祭り	40
	国際交流	23
	ポップコーン作り	42
9	敬老会	43
	すこやかともしび祭り	3
10	麻生の湯(機能訓練)	15
	大運動会	44
11	おにぎり作り	43
12	鏡餅作り	21
	クリスマス会	42
	忘年会	40
1	新年会	36
2	節分	38
	バレンタインデーカップケーキ作り	46
3	年度末感謝祭	62
合 計		731

(5) 在宅サービス課(在宅介護支援センターかつぼ園)

- ・利用者や家族の生活に視点をおき、自己決定に基づく自立した生活が送れるように、課題整理総括表を活用し、インフォーマルサービスも含めた地域資源を活用した居宅サービス計画書の作成を行うことができた。また、かかりつけ医との連携を強化し、サービス事業所等との連携を図りながら住み慣れた地域での生活が継続できるように支援することができた。
- ・法令遵守に沿ったマニュアルの整備や業務の見直しを事業所全体で取り組み、業務の標準化、効率化に努めた。
- ・地域の介護支援専門員の資質向上を目指し、他法人との合同事例検討会を年2回開催し、地域の介護支援専門員との繋がりやお互いの資質向上に取り組むことができた。

- ・地域の中にあるインフォーマルサービスの把握に努めると共に、地域が必要としている社会資源等について事業所内で話し合いを行った。

資料＜利用者の状況＞

① 居宅サービス計画作成数

単位：件（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	137	129	132	132	129	140	1,603
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	131	134	140	135	132	132	
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	132	137	133	127	130	130	1,596
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	132	140	136	133	128	138	

② 介護予防支援受託件数

単位：件（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	14	13	13	11	14	15	185
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	15	16	19	18	19	18	
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	17	17	17	18	18	17	193
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	15	16	15	14	15	14	

③ 介護予防ケアマネジメント受託件数

単位：件（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	4	3	4	3	3	2	31
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	2	2	2	2	2	2	
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	5	5	5	7	6	5	58
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	5	4	4	4	4	4	

④ 訪問調査件数

R1年度	170件	30年度	130件
------	------	------	------

2. ボランティア・実習生等の受け入れ

① ボランティアの受け入れ

単位：人(延べ数)

区 分			R1 年度	30 年度
かつぼ園	定期	個人ボランティア	57	79
		団体(グループ)ボランティア	285	411
	随時	個人ボランティア	5	0
		団体(グループ)ボランティア	0	6
		保育園・学校等	14	62
	合 計			361

② 施設及び居宅実習・体験実習等の受け入れ

受入事業所	区 分	R1 年度		30 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
特養かつぼ園	北陸福祉保育専門学院 (介護福祉士資格取得)	5	106	3	80
	北陸福祉保育専門学院 (管理栄養士資格取得)	2	24	-	-
	悠久山栄養調理専門学校 (栄養士資格取得)	0	0	2	12
	悠久山栄養調理専門学校 (調理師資格取得)	2	28	1	14
	新潟県新採用職員研修	2	2	2	2
デイかつぼ園	北陸福祉保育専門学校(職業実践 実習)	3	3	6	6
支援センター	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	15	30	15	30
デイ・特養	福祉体験学習 (中学校)	2	4	2	5
合 計		31	197	32	155

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

- ・事故を未然に防ぐためにインシデント報告の重要性について学ぶ研修会を実施した。職員がインシデントの定義や意味を再確認することで、インシデント報告の意義や情報の共有の意識付けにつながった。また業務改善の視点からも、ヒヤリハット報告書の見直しと介護ソフトの事故報告から必要事項が取り込めるように改良した。合わせてマニュアルの整備、職員への周知も行い報告書の作成にかかる負担を軽減することができた。

② 食事サービス委員会

- ・食事について、利用者からの意見や、見た目、配膳に関する意見等を各部署から報告をしてもら

い、改善点を給食業者と話し合い、より良い食事提供につなげることができた。また、温冷配膳車を導入し1年が経過したが、温度や形状など再加熱によって生じる課題もあったが、その都度話し合いを重ね、適温配膳により、より満足感のある食事提供が行えた。

③ 防災委員会

- ・前年度の避難訓練において消防署から、「より職員人数が少ない夜間帯での訓練実施を多くした方が良い」という助言を受けて、イメージトレーニング並びに夜間想定避難訓練を各2回実施した。動きの確認を複数回行うことにより、職員の防災への意識が高まり、よりの確な動きができるようになった。また、有事の際により判断が適切にできるよう、責任者が不在な状況を想定し訓練を行った。

④ 感染対策委員会

- ・食中毒や感染症の予防及び発生時の対応について年2回の定期研修を実施した。今年度は感染症の発生はなく、委員会から職員一人一人の意識付けを行うことで予防できた。2月以降は、新型コロナウイルス感染予防対策のため緊急の感染対策委員会を開催し、在宅系サービス利用者及び施設入所者の感染予防対応策や入所施設の家族等の面会制限の検討を行った。また新型コロナウイルス感染予防マニュアルの作成にも着手した。あわせて利用者へ感染させないよう出勤時の手洗い・うがいの習慣を強化するよう働きかけた結果、「1ケア・1消毒」の意識が高まり手洗いやアルコール消毒の習慣がついた。今後も、様々な取り組みを実践し感染症まん延を回避していきたい。

⑤ 労働衛生委員会

- ・職員の定期健康診断実施後、要精密検査の結果が出た職員には再受診するよう専門職から働きかけ、早期に疾患を発見し治療に繋げることができた。ストレスチェックでは前年度と比較し高ストレス該当者が増加した結果が出た。人員不足によるものと思われるが、腰痛、肩こりなど訴える職員も増えていることから、身体の不調を予防するポイントをテーマに研修を実施した。

⑥ 身体拘束廃止虐待防止委員会

- ・法令の改正に伴い、指針やマニュアル、フロー図等の再確認を行った。また、やむを得ず身体拘束を実施する対象者に対する拘束解除の検討を2ヶ月毎に委員会で実施した。また、不適切なケアの場面がなかったか、虐待防止の内容も含み研修を2回実施した。

⑦ 園芸委員会

- ・例年以上にご利用者の活動機会を設けて、見て楽しむことに「できることをできる範囲で楽しむ」ことを加えることができた。結果、法人納涼祭の屋台でビールのおつまみ用枝豆を賄ったり、国際交流で訪れた海外の学生に押し花で作成したしおりをプレゼントすることができた。
- ・日々の活動はホームページで発信し、第52回新潟県花いっぱいコンクール・第24回長岡市花いっぱいコンクールともに『職場部門・優秀賞』を受賞することができた。

⑧ 痰の吸引等安全対策委員会

- ・今年度も医師より痰の吸引の指示を受けた入所者はいなかったが、実際に現場で痰の吸引を介護職員が実施する場面があった場合に適切に対応できるように、実技研修を年2回実施した。

4. 苦情（意見）内容

特別養護老人ホームかつぼ園	①内容	申出人 ご家族 入所説明時の看護職員の態度が高圧的だった。またその時の説明内容に納得いかず不信感を持った。
	原因と対応	内服薬の処方の方針を確認していたが、強い薬であることを強調しすぎてご家族に不安を与えてしまった。また認知症の不応行動による転倒のリスクが高いことを説明したつもりであったが、感情的になってしまった。すぐにリーダーと上司が自宅へ訪問し謝罪した。また改めて内服薬や認知症による転倒のリスクについて説明し納得いただいた。
	改善策（結果）	看護職員の接遇について指導を実施した。内服薬や病状の詳細な説明は、医師が実施することとした。
短期入所事業	①内容	申出人 ご家族 他のご利用者が疥癬と診断された連絡を介護支援専門員から受けたが、当該ご利用者のご家族に連絡を入れなかった。
	原因と対応	日頃ご家族が不在であったことから、連絡を怠ってしまった。責任者がご家族と面談し謝罪した。
	改善策（結果）	感染症については、迅速に正確な情報をご家族へ連絡することを徹底するよう職員全体で周知を図った。
デイかつぼ園	①内容	申出者 ご家族 通所介護サービス計画の説明を迎え時に行ったが、忙しい時間帯に説明することについて苦情があがった。
	原因と対応	送迎時の短い時間で説明することについて、不快感を与えてしまった。書類の説明は事前に連絡を入れ予定を確認すべきであった。管理者が送りの送迎で謝罪した。
	改善策（結果）	書類の説明は事前に連絡を入れ予定の確認を行うこととした。
	②内容	申出者 ご家族 糖尿病のご利用者であるが、多量に発汗があった場合の対応について苦情があがった。
	原因と処理	普段から多量の発汗があるため、低血糖の症状であると職員が見逃した。管理者がご家族へ謝罪し、今後はすぐに血糖測定を行いご家族へ連絡する対応を取ることを説明した。ご家族も納得された。
改善策	ご利用者の普段とは違う症状について、職員全体で周知した。また糖尿病等、ご利用者が罹患している疾患の理解を深める取り組みを実施した。	

【拠点・福祉センターふそき】

1. 事業運営の成果

(1) 高齢者センターふそき

- ・日常的な自主点検と館内清掃・消毒を継続しより安全・清潔・衛生を確保した。老朽化に伴う不具合が多数発生したが、修理、修繕をこまめに行い、営業に支障が生じることはなかった。
- ・来館者総数は前年度比で91.5%となった。広報活動は継続して行っているが、個人利用の高齢者と個室利用者の減少が要因となっている。自主事業については、周知されてきており、映写会については毎回楽しみにされているという声もいただき利用者は増加している。
- ・自主事業のレインボー健康体操については、昨年比83%と参加者が減ったが、夏場の熱中症対策による減数対応と新型コロナウイルスにより中止したことによる影響と考える。

資料 <利用者の状況>

① 利用者数

項目	年度	延べ人数	前年度比 (%)
専用室利用者	R1	14,604	89.4%
	30	16,340	
個人入館者	R1	17,378	93.4%
	30	18,603	
合計(総入館者)	R1	31,982	91.5%
	30	34,943	

② 行事等の状況

カラオケ・誕生会

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	R1年度	30年度	R1年度	30年度		R1年度	30年度	R1年度	30年度
4	1	1	93	107	10	1	1	99	94
5	2	1	171	84	11	1	1	65	96
6	1	1	96	96	12	2	1	190	98
7	1	1	91	93	1	1	1	65	95
8	1	1	97	105	2	1	2	71	192
9	1	2	97	155	3	0	1	0	96
合 計						13	14	1,135	1,311

映写会

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	R1年度	30年度	R1年度	30年度		R1年度	30年度	R1年度	30年度
4	2	2	27	20	10	2	2	36	20
5	2	2	30	15	11	2	2	26	33
6	2	2	92	39	12	2	2	29	35
7	2	2	59	16	1	2	2	34	39

月	実施回数		延べ参加人数		月	実施回数		延べ参加人数	
	R1 年度	30 年度	R1 年度	30 年度		30 年度	R1 年度	30 年度	R1 年度
8	2	2	27	16	2	2	2	41	32
9	2	2	36	24	3	0	2	0	34
合 計						22	24	437	323

その他

月	内 容	参加人数	
		R1 年度	30 年度
12	はかま紙教室	8	11
2	豆まき	35	27
合 計		43	38

(2) 長岡市デイサービスセンターふそき

- ・通所介護（一般型）については、登録者数並びに延べ人数共に大幅に減少した。様々取り組みを行ったが、外部環境問題として新たに開設された事業所が多かったことや、多様化するニーズに対応しきれなかった結果と分析する。しかし個別機能訓練についてはご利用者とご家族に認知されニーズが高まっており、継続して行うことができた。
- ・事業所内で通所介護サービス計画についての研修を行い、個別ニーズに即した計画を作成することができた。また、近隣のお店への買い物や夏祭り開催等の多様な活動を提供することで、認知機能の予防、生活機能を向上させる訓練や社会性の向上を図ることができた。
- ・認知症対応型通所介護では、近隣の保育園から花の苗をいただき、それを育てて成長具合を保育園に報告したり、地域への外出や散歩などを通して社会性の向上とが図られた。
- ・自主事業として地域老人会等に向けて継続的に職員を派遣し、要望に沿って活動の支援を実施した。また地域に向けてボランティアを募集したところ、多くの問い合わせをいただき、様々な活動を通して、ご利用者と地域の方との交流が深まった。
- ・居宅介護支援事業所等その他「かわら版」を地域へ配付・回覧を継続して実施した。また地域ケア会議や地域福祉懇談会へ参加し、関係機関との連携を強化することができた。

資料<利用者の状況>

① 登録者数

単位：人（実数）

年度	長岡市		合計
	一般型	認知症型	
R1	157	40	197
30	172	39	211

② 利用者数

単位：人（延べ数）

区分 年度	長岡市		合計	稼働日数	1日あたり 平均人数
	一般型	認知症型			
R1	9,544	3,009	12,611	366	34.4
30	9,724	2,801	12,429	365	34.1

③ 月別利用数

() 内は予防通所介護及び予防通所サービス利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	一般型		662 (121)	650 (129)	675 (119)	701 (117)	700 (103)		
10		11	12	1	2	3			
		695 (114)	683 (127)	706 (126)	664 (112)	637 (116)	671 (131)		
認知症型		279 (0)	265 (0)	251 (0)	265 (0)	255 (0)	251 (0)	3,009 (0)	68.7%
	10	11	12	1	2	3			
		245 (0)	237 (0)	247 (0)	237 (0)	214 (0)	263 (0)		
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率
	一般型		715 (101)	712 (105)	703 (104)	721 (101)	698 (108)	668 (111)	8,392 (1,332)
10		11	12	1	2	3			
		688 (116)	699 (123)	768 (118)	675 (116)	641 (112)	704 (117)		
認知症型		201 (0)	238 (0)	235 (0)	247 (0)	243 (0)	236 (0)	2,841 (0)	64.7%
	10	11	12	1	2	3			
		238 (0)	240 (0)	241 (0)	240 (0)	224 (0)	258 (0)		

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	介護度	要支援 1	要支援 2	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	一般型	344	1,085	2,421	2,802	1,453	1,055	384	9,544	2.28
	認知症型	0	0	636	823	593	615	342	3,009	2.74
30 年度	介護度	要支援 1	要支援 2	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	一般型	304	1,028	2,613	2,707	1,681	948	443	9,724	2.27
	認知症型	0	0	604	600	501	400	696	2,801	2.99

⑤ 行事等の状況

単位：人（延べ数）

月	行事内容	参加人数	
		R1年度	30年度
4	お花見ドライブ	149	131
5	菖蒲湯	75	89
6	買い物外出	27	—
7	ふそき夏まつり	73	108
9	長寿を祝う会	72	71
	すこやかとしびまつり見学	5	7
10	コミュニティふそきまつり見学	3	2
	ふそき大運動会	37	—
11	山本コミュニティ芸能発表会見学	3	4
	秋の外出	4	—
12	クリスマス会	68	72
	鏡餅作り	30	—
	ゆず湯	101	—
1	新年会	42	73
2	節分	71	66
3	春を迎える会	—	—
合 計		760	725

(3) くらし元気アップ事業「ふそき元気塾」

- ・定員 20 名、火曜日と金曜日の週 2 回の開催であるが、ご利用者の希望や予想と違うという要因等から新規のご利用者の定着がなかなか図られなかった。そのため地域包括支援センタ

一に対して、サービス内容の情報提供を密に行い、新規利用者の確保の働きかけを行った。

- ・毎回法人の運動指導員による運動機能向上プログラムを組み込み、かつ認知症予防や口腔機能向上講座を定期的実施した。また、心身の活性化を図るため季節に応じた外出や利用者の要望を取り入れ活動内容に反映させた。
- ・ボランティア育成や活用も長岡市から求められていることから、地域に向けて募集したが応募者はいなかった。今後も活動内容を広く地域へ発信していきたい。

資料＜利用者の状況＞

① 利用者数

単位：人（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	人数	158	143	141	155	138	143	1,742
	月	10	11	12	1	2	3	
	人数	155	162	142	136	137	132	
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	
	人数	126	154	155	153	136	134	1,711
	月	10	11	12	1	2	3	
	人数	156	153	134	127	133	152	

(4) 介護プランセンターふそき

- ・前年度は配属された新採用職員が業務に慣れず居宅サービス計画作成件数が増えなかったが、今年度は成長もみられ、新規ケースも多く受け入れることができた。
- ・病院からの計画作成に係る依頼も多く、かかりつけ医やサービス事業所等との多職種連携、地域住民との情報共有を行い、ご利用者が住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援した。困難事例に対しては地域包括支援センターや各サービス事業所、地域とも連携し対応を行った。
- ・地域の介護支援専門員の資質向上を目指して川東北地区の複数の他法人の居宅介護支援事業所と協力し、合同の事例検討会や研修会を開催した。救急病院からの在宅復帰を支援する場面で、各専門職の立場としての理解を深める為、長岡中央総合病院地域連携支援部を招いた研修を実施したり、ふそき地域の居宅介護支援事業所に声をかけ年2回事例検討会を開催することができ、専門職として資質向上に努めた。

資料＜利用者の状況＞

① 居宅サービス計画作成数

単位：件（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	128	124	133	129	129	128	1,535
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	126	127	124	128	129	130	

30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	124	114	118	115	122	119	1,495
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	134	129	131	128	130	131	

② 指定介護予防支援受託件数

単位：件（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	10	10	11	9	8	9	117
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	9	9	10	10	11	11	
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	13	12	14	11	12	11	147
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	14	13	13	11	12	11	

③ 介護予防ケアマネジメント受託件数

単位：件（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計
	件数	5	6	6	7	5	4	56
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	4	3	4	4	4	4	
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	
	件数	6	6	7	6	6	7	71
	月	10	11	12	1	2	3	
	件数	7	6	5	5	5	5	

④ 認定調査件数

R1年度	219件	30年度	150件
------	------	------	------

(5) 長岡市地域包括支援センターふそき（長岡市委託事業）

- ・関係機関と連携を図り、町内回覧で包括支援センターのチラシを配付することで相談に繋がりが、今年度は今まで関わりのなかった地域の単身世帯、高齢者世帯中心に戸別訪問を行い実態把握を実施できた。しかし、3月以降は新型コロナウイルスの発生で戸別訪問することができなかった。
- ・地域包括的支援をより深く学ぶため、計画的に内部研修を実施したり外部研修に参加する

ことで、職員の資質向上を図り、近年増加する支援困難ケースに対応することができた。

- ・地域包括ケア会議（圏域会議）を開催し、圏域会議の評価と困難事例検討を行い、専門職として適切な助言を行った。
- ・地域住民に虐待防止への意識が高まり民生委員や家族、本人からの虐待相談が増加しているが、繰り返し虐待を行っていると思われる家族に対しては、各事業所、担当ケアマネジャー等と連携し対応することができた。
- ・認知症サポーター養成講座の依頼に対応し、地域への理解を深めることができた。
- ・多職種交流会を開催することで、圏域内の関係機関と更なる連携を強化でき、顔の見える関係性が強化できた。
- ・総合事業は、事業対象者を対象にふそき元気塾をはじめ、利用者のニーズに添った予防サービスの利用に繋げることができた。

資料＜利用者の状況＞

① 相談業務の状況

・相談人数 (単位：件)

年度	電話	来所	訪問	その他	合計	実態把握 年間実件数
R1	2,327	351	1,627	174	4,479	960
30	2,678	492	1,313	191	4,674	715

・相談経路 (単位：件)

年度	本人	継続	家族	民生委員	福祉機関	医療機関	地域機関	現況調査	行政機関	その他	合計
R1	124	996	275	27	35	43	14	551	27	66	2,158
30	183	928	313	39	40	70	11	154	22	55	1,815

・相談内容 (単位：件)

相談内容		件数	
		R1年度	30年度
介護保険	認定関係	546	504
	サービスの紹介	416	463
	その他	621	602
小計		1,583	1,569
介護保険外	介護方法や介護の悩み	63	66
	医療・疾病関係	40	37
	高齢者の介護予防	98	79
	配食サービス	3	5
	外出支援サービス	52	47
	生活支援サービス	120	73
	福祉機器	65	55
	住宅の増改築	45	21
その他サービスの取次ぎ		47	130

相談内容		件数		
		R1年度	30年度	
介護保険外	虐待防止	1	1	
	権利擁護・成年後見	13	2	
	認知症・物忘れ	113	132	
	その他	1,123	654	
小計		1,783	1,302	
ケアマネ支援	ケアマネジメント	アセスメント	0	1
		ケアプラン	0	0
		サービス調整	0	0
		モニタリング	0	0
		担当者会議	0	0
	社会資源紹介	0	2	
	医療との連携	0	1	
	対人援助技術	0	0	
	制度の説明	0	0	
	個人の悩み	1	0	
	その他	2	3	
小計		3	7	
支援内容 (延べ件数)	情報収集	0	0	
	内容整理・問題の明確化	1	2	
	助言	1	7	
	同行訪問	0	3	
	会議	0	1	
	経過確認	0	3	
	その他	2	3	
小計		4	19	
合計		3,373	2,897	

② 介護予防支援実施人数（年間延べ件数）

年度	直営	委託	合計
R1	344	1,505	1,849
30	219	1,312	1,531

③ 介護予防ケアマネジメント実施人数（年間延べ件数）

年度	直営	委託	合計
R1	652	358	1,010
30	654	474	1,128

④ 年間給付管理件数

年度	直営	委託	合計
R1	996	1,863	2,859
30	873	1,786	2,659

⑤ 虐待対応件数

項目	R1 年度	30 年度
虐待支援計画作成件数	21	23

2. ボランティア・実習生の受け入れ状況

(ボランティアの受け入れ)

単位：人(延べ数)

区 分			R1 年度	30 年度
長岡市デイサービスセンターふそき	定期	個人ボランティア	460	317
		団体(グループ)ボランティア	136	130
	随時	個人ボランティア	10	12
		団体(グループ)ボランティア	89	84
		保育園・学校等	91	102
	合 計			786

(実習生の受け入れ)

受入事業所	区 分	R1 年度		30 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
長岡市デイサービスセンターふそき	北陸福祉保育専門学院 (小学校教諭普通免許)	5	25	4	20
	新潟県社会福祉協議会 (介護等体験)	5	25	6	30
	長岡こども福祉カレッジ (レクリエーション実習)	9	18	11	4
	福祉体験学習 (高校生の職場体験)	-	-	2	6
介護プランセンターふそき	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	17	34	18	36
地域包括支援センターふそき	新潟県厚生連中央看護専門学校 在宅看護実習	10	20	10	20
	東北福祉大学通信教育部 社会福祉士演習・実習	1	3	-	-
合 計		47	125	51	116

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

- ・各部署で発生したヒヤリハットについて、積極的に情報の共有を図り、少しでも未然に防げる対策を講じるよう努めた。委員会主催の研修は、より実際の状況をイメージしやすいよう写真等を活用し KYT 訓練を実施した。職員からも具体的で分かり易かったという意見が聞かれた。

② 防災委員会

- ・年間を通じて様々な災害を想定した訓練を実施した。昨年度「高齢者センター職員不在時の災害対応について不安である」という多くの職員の声を受けて、防災盤の取り扱いについて改めて研修を行った。また、年間の訓練についての総まとめをテスト形式で実施し、様々な災害が起こった際取るべき行動について再確認を行った。

③ 感染対策委員会

- ・基本的な感染予防の徹底を図るため、外部講師を招き手洗いの効果的な方法を学び、各自の点検を行った。また各事業所の現状に合わせた感染予防を部署ごとに検証、確認し、それを全体で共有した。これらの取り組みにより各自の感染予防に対する意識が向上した。

④ 労働衛生委員会

- ・委員会主催の研修については、外部講師を依頼し実施した。テーマはメンタルヘルスとしたが、「身体のメンテナンス」についてより時間を割いて実施された。腰痛や肩痛等を抱えた職員が思いのほか多く、自らの身体のメンテナンスも働くためには重要であることを痛感した。

⑤ 身体拘束虐待廃止委員会

- ・虐待の可能性を疑う事例は確認されなかったが、早期発見の視点について研修を実施した。

4. 苦情（意見）内容

デイサービスセンターふそき	①内容	申出人：ご家族 次回の送迎時間を事前に電話を入れておいたが職員に伝わっていなかった。どのようにしたらしっかりと対応してもらえるのか。
	原因と処理	職員の周知が徹底されていなかった。また希望受付後の処理方法が曖昧だった。ご家族へ管理者が謝罪した。
	改善策（結果）	ご家族からの伝言は書面（メモ）で担当職員へ手渡しする。また送迎に関する事は業務表担当者へ必ず伝えることを再周知した。
	②内容	申出人：ご家族 褥瘡治療をお願いしたのにしてもらえなかった。皮膚状態を勝手に判断しないでほしい。
	原因と処理	褥瘡部が乾燥していたため、治療をするよりもそのまま乾燥したほうがよいと判断してしまった。ご家族へ謝罪した。

デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー ふ そ き	改善策 (結果)	ご家族が傷等の治療を希望される時は指示通りに行なったうえで、皮膚状態や対応等を連絡する。
	③内容	申出人：匿名者 朝迎え時の車両に関して「お前たちの運転は荒い」と電話が入った。
	原因と 処理	指摘されたルート走行した職員は制限速度を守り、一時停止もしていた。
	改善策 (結果)	車両に事業所名が入っていることを意識し、道路交通法を厳守して送迎する。
	④内容	申出人：ご家族 朝送迎時、職員から沢山の書類を玄関先で次々に説明された。利用者を待たせた状態だったうえ書類に不備もあった。
	原因と 処理	書類を渡す際のマニュアルが守られていなかった。 玄関先での説明は近隣に聞こえるかもしれないというプライバシー配慮に欠けていた。ご家族へ謝罪した。
	改善策 (結果)	配付書類等は必ず確認してからお渡しする。 書類関係は事前に家族と時間を設定してから訪問し、説明する。
	⑤内容	申出人：ご利用者の担当介護支援専門員 生活相談員から利用日の連絡ミスの説明を受けたとき、言い訳を並べ、人の話を遮って話をされた。良い印象を持たなかった。
	原因と 処理	連絡ミスについての経緯の説明の仕方が不適切だった。 生活相談員の話し方の癖が、相手の話を遮る形となって表れてしまった。
	改善策 (結果)	話し方、聴き方について生活相談員会議で確認しあう。 連絡ミスが起きないように、利用日変更等はメモに残して介護支援専門員への連絡を確実に行う。
	⑥内容	申出人：匿名者 送迎時、一時停止線からはみ出て停止したため、左側から来た一般車両と接触しそうになった。
	原因と 処理	高齢者ドライバー（シルバー人材）の運転だったためブレーキ反応が遅くなってしまったのではないかと。「このくらいいいだろう」という慣れから停止線をオーバーしてしまった。
改善策 (結果)	車両に事業所名が入っていることを意識し、道路交通法を厳守して送迎する。高齢者ドライバー（シルバー人材）の運転技量について観察していく。	

【拠点・ケアセンター花の里かつぼ】

1. 事業運営の成果

- ・法人本部の発信のもと計画的に年休取得の推進を図ることができ、職員の年休取得増に繋がったことや職員個人で業務を抱えこまない業務分担制の定着化を推進したことで時間外の削減や働きやすい環境を作る事ができた。
- ・経費節減に努めコスト管理の徹底を図ることはできた。一方、現在実施しているユニット型介護老人福祉施設人員配置モデルに基づく体制は人件費支出割合が高く課題であるため、今後見直しが必要である。

(1) 特別養護老人ホーム花の里かつぼ

- ・入居者の重度化や高齢化が進み平均介護度は 4.48 となった。加えて転倒骨折等や感染症による入院者がおらず、退所者も 3 名と少なかった。また、待機者の確保や入所の受入れを円滑に行うことができたことで稼働率は 99.7%と昨年度比 0.8%増であった。

① 介護

- ・地域運営推進会議を通じて地域の方から情報を得て、ほたる鑑賞や芋ほり等に出かけ、入居者や職員が地域の方と交流する機会を多く持てた。
- ・施設サービス計画に基づき、季節に応じた余暇活動や行事活動のほか洗濯たたみ等の軽作業や園芸活動、外出活動等を通じ、入居者個々のニーズに沿った支援を実施できた。
- ・看護師、管理栄養士と連携を図り入居者の確実な水分摂取に取り組んだ。結果として飲水量の増加や自然排便の促進等、健康状態の維持、向上に繋げることができた。
- ・研修計画に基づき、職員個々のスキルアップを図った。また、階層段階に応じた外部研修に参加し資質の向上を図った。
- ・第三者評価機関による評価を受け、県のホームページや東山通信により結果を公表した。また、指摘されたマニュアルの見直しや介護職員による機能訓練の充実等の課題については令和 2 年度の活動内容に反映させ改善を図っていく。

② 医務

- ・協力病院、主治医と連携を図り入居者の健康管理に努め疾病の早期発見、治療につなげることができた。治療を必要とする入院は 1 人だった。
- ・多職種やご家族と連携を図り安心して最期を迎えられるようケアを行い、入居者 2 人の看取り介護を行う事ができた。
- ・多職種連携し感染予防対策の実施及び周知の徹底を行う事で、施設内で感染症に罹患される入居者はいなかった。
- ・嚥下機能維持向上及び身体機能維持向上を図るため、定期的に口腔体操を行い、体を動かす機会を増やし活気のある生活につなげることができた。
- ・施設内研修を行い質の向上に努めることができた。

③ 給食

- ・委託給食業者と連携をとり、毎月の茶話会や日々関わりの中での入居者の要望を献立に取

り入れることで潤いのある食事の提供を行うことができた。

- ・多職種で食事観察を行ない、入居者の咀嚼・嚥下状態に合った食事形態及び水分形状で食事を提供し、誤嚥の予防を行い、経口維持の取り組みを行った。
- ・厨房内空調整備・温冷配膳車の温度調整修理を行い、労働衛生環境の整備と、安全安心で適温での食事提供を行った。

資料1 <入居者の状況>

① 入退所状況

単位：人（実数）

入所前の待機場所						
待機場所	在 宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病 院	法人グルー プホーム	合 計
R1 年度	0	1	0	1	1	3
30 年度	2	0	4	2	3	11

退所の状況					
状 況	在 宅	施設内で死亡 ※1（ ）	病 院	他施設	合計
R1 年度	0	3	0	0	3
30 年度	0	9 (9)	2	0	11

※1（ ）ターミナルケア計画に基づき、施設内で看取りを実施した数

② 年度末介護度別数

単位：人（実数）

年度	介護度	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
	R1 年度		0	0	4	8	17
30 年度		0	0	2	11	16	29

③ 月別利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率		
	人数	856	899	870	896	893	869			10,586	99.7
月	10	11	12	1	2	3					
人数	895	870	899	899	841	899					
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率		
	人数	864	895	866	878	890	864			10,485	99.0
	月	10	11	12	1	2	3				
	人数	895	870	894	899	789	881				

④ 介護度別利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	0	1,036	3,464	6,086	10,586	4.48
30 年度	介護度	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	0	822	4,603	5,060	10,485	4.41

⑤ 日常生活動作（令和2年3月31日現在） 単位：人（実数）

生活動作尺度	区 分	R1 年度	30 年度
移 動	独歩	2	2
	介助・介助具使用	3	3
	車椅子	24	24
食 事	自立・見守り	14	14
	一部介助	2	4
	全介助	12	10
	経管栄養	1	1
排 泄	トイレ 自立	3	3
	一部介助	3	7
	全介助	3	2
	ポータブルトイレ	0	0
	自立	0	0
	一部介助	0	0
	全介助	0	0
	オムツ	20	16
フォーレ	0	1	
入 浴	一般浴（座浴）	14	14
	特浴	15	15

⑥ 食事形態（令和2年3月31日現在）

単位：食（実数）

主食		副食		流動食	経管栄養
米飯	10	常食	3	2	1
粥	7	刻み食	8	/	/
ミキサー粥	5	超刻み食	10		
パン	2	ミキサー食	5		
パン粥	2				

資料2 <余暇活動等>

① 余暇活動の実績

単位：人(延べ数)

月	余暇活動内容	参加人数
4	桜見学	4
5	テラスで食事	19
	千秋が原公園にお花見・外食 ちまき作り	3 11
6	外食(里味)	2
	イングリッシュガーデン外出	3
	クレープ作り	10
	蛍見学(特養・GH合同)	2
7	外食(里味)	2
	カキ氷作り	10
	悠久山動物園外出	3
	アイスパーティー	10
	七夕まつり	29
8	アイスパーティー	9
	クラシックコンサート外出	1
	花の里花火大会	16
9	敬老会	29
	サーティーワン外出	1
	すこやかともしび祭り外出	3
	プリンアラモード作り	10
10	プリンアラモード作り	9
	ハイブ長岡外出	3
11	地域交流室で昼食会	10
	たこ焼き風どら焼作り	9
12	クリスマス会	29
1	お好み焼き作り	9
	新年会	29
2	豆まき	29
	バウムクーヘンでパフェ作り	10
合 計		314

② 喫茶・お茶会

	実施回数	延べ参加人数
お茶会	4	39
喫茶	12	421

(2) グループホーム花の里かつぼ

- 入居者個々の認知症状や行動特性を踏まえ、室内環境や動線上の安全確保に取り組み、骨折による入院者はいなかった。しかし、急性疾患による入院が3名、他界者2名と続いた月があり稼働率に影響し98.4%となった。
- 高校野球部の応援や部室掃除、町内ゴミステーション美化活動などの地域活動、地域ボランティアとの交流を継続し実施できた。また、地区社協主催のふれあい食事会を当事業所内にて開催し、地域の小学生や地域住民が参加され世代間交流を図る機会となった。地元の小学校が実施している児童を主体とした花壇整備活動である「ありんこ活動」も継続して参加することができ入居者の楽しみや張り合いに繋がった。3年目となり、子供達が主体となって入居者と関わり手を携える様子も見られた。地域活性化プロジェクトの畑活動に参加、畑の看板作りを当事業所で実施、プロジェクトメンバー・地域住民・子供達と協力し、畑への興味・関心の輪を広げる事に繋がった。
- 2か月に1回、地域住民の代表・家族・利用者・地域包括支援センター職員から参加頂き地域運営推進会議を開催した。参加者に幅広く事業内容や活動を知って頂く機会となった。地域の方からは「地域との関わりもとても密でお互い様の関係でありがたい」等評価頂いた。
- ご家族、主治医と連携し、2名の看取りを実施した。「その方らしさ」を尊重し寄り添うケアに努め、ご家族に囲まれて最期を迎えられた。

資料<入居者の状況>

① 入退居の状況

単位：人（実数）

入居前の状況					
状況	在宅	長期間 ショート	老健等 他施設	病院	合計
R1年度	7	0	1	0	8
30年度	3	0	1	1	5
退居の状況					
状況	在宅	施設内で死亡	病院入院・ 老健等他施 設	特養へ入所 ※1（ ）	合計
R1年度	0	2	4	2	8
30年度	0	2	1	2 (2)	5

※1（ ）内は法人内施設への入居された方の数

② 年度末介護度別数

単位：人（実数）

年度	介護度						
	要支援2	1	2	3	4	5	合計
R1年度	0	2	5	8	2	1	18
30年度	1	0	6	7	2	2	18

③ 月別利用数

単位：人（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率 98.4%
	人数	540	537	533	557	556	533	6,487	
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	558	539	558	537	484	555		
30 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率 99.2%
	人数	538	544	536	558	558	540	6,516	
	月	10	11	12	1	2	3		
	人数	547	559	554	542	504	558		

④ 年度介護度別数

単位：人（延べ数）

R1 年度	介護度	要支2	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	0	204	1,574	2,643	1,319	747	6,487	3.11
30 年度	介護度	要支2	1	2	3	4	5	合計	平均介護度
	人数	140	41	2,340	2,385	528	1,082	6,516	2.96

⑤ 余暇活動の実績

単位：人（延べ数）

月	余暇活動内容	参加人数
4	花見ドライブ（うち DS2 名）	11
	愛宕公園他ドライブ（うち DS4 名）	10
	中越高校・福島江ドライブ	7
	外食	1
	悠久山	1
	中越高校野球部監督室掃除（うち DS1 名）	2
	栃尾道の駅	4
	山本地区花フェスタ	3
5	浦瀬小運動会	2
	麻生の湯	5
	駅前プランター整備活動	1
	中越高校監督室掃除	1
	東山ドライブ	1
	かつぼ園観音様	2
	桂小学校運動会・花植え	1
	すことも作品作り（うち DS8、地域住民 12 名）	32
	地域畑芋植え	2
	6	パティオ新潟（うち DS1 名）
おはぎ作り（うち DS3 名、ご家族 8 名、地域の方 6 名）		35
桂小学校ありんこ活動		4
中越高校野球部監督室掃除		1

月	余暇活動内容	参加人数
6	ふれあい食事会	2
	イングリッシュガーデン	1
	蛍見物・麻生の湯	2
	すことも作品作り（うち DS12、地域住民 12 名）	35
	中庭ピクニック	18
	見附大凧合戦	7
7	夏祭り（うち DS3 名、ご家族 10 名）	31
	桂小学校ありんこ活動	4
	緑化センター	2
	悠久山高校野球応援（うち DS3 名）	6
	川崎町内祭り	1
	江口団子	4
	中越高校グラウンド	4
	すこやかともしび作品作り・創作活動（うち DS8 名、地域住民 12 名）	31
	夏祭り（うち DS6 名、ご家族 19 名）	43
ふれあい食事会（うち DS3 名、地域住民 10 名子ども 3 名）	34	
8	長岡花火見物	8
	かつぼ観音掃除・花供え（うち DS2 名）	3
	中越高校野球部監督室掃除	1
	市内ドライブ	1
	すことも作品作り（地域住民 12 名）	13
	こいていこいて同窓会	1
	かつぼ園納涼祭	1
9	中越高校野球部監督室掃除（うち DS1 名）	2
	すこやかともしび祭り（うち DS1 名）	7
	中越高校文化祭（うち DS1 名）	2
	ケアガーデン新収穫祭	15
	桂小学校花の会（うち DS3 名）	2
	市民フェスタ	2
	地域の畑収穫祭	3
10	長寿を祝う会（ご家族 7 名、DS5 名）	30
	中越高校監督室掃除（うち DS1 名）	2
	山本中音楽祭	2
	水穴団地クリーンサンデー	1
	小国外食	2
	三宝亭外食	4
	かつぼ園観音様花植え・掃除	1
	魚べい外食	1

月	余暇活動内容	参加人数
10	駅前プランター	1
	ランタン作り（うち DS8 名、地域住民 12 名）	29
11	魚べい外食	1
	桂小学校なないろ祭り	4
	コミセン文化祭（うち DS1 名）	4
	栃尾道の駅	2
	中越高校野球部監督室掃除	1
	八方台ドライブ	3
	テラス喫茶	7
	ランタン作り（うち DS12 名、地域住民 12 名）	32
12	外食	1
	市内ドライブ	9
	クリスマスリース作り（うち DS9 名、地域住民 12 名）	35
	クリスマス会（うち DS2 名、地域住民 11 名、ご家族 6 名）	37
	大掃除・忘年会（うち DS2 名、ご家族 8 名）	28
	雑巾縫い等裁縫・創作（うち DS8 名、うち地域住民 12 名）	32
1	水穴町賀詞交換会	1
2	節分（うち DS3 名、地域住民 5 名）	26
合計		714

⑥ クラブ活動の実績

クラブ名	実施回数	参加人数
書道教室	7	53（うち共用デイ利用者 10）

（3）デイサービス花の里かつぼ

- ・居宅介護支援事業所と連携を図り、認知症状や栄養状態等の細かな情報をご利用者やご家族へ伝え、適切なサービスが提供できるよう努めた。若年性認知症者や他サービスに繋がらないケースについても、関係機関と連携を図り受け入れを実施して来たことが信頼・評価へと繋がり稼働率に影響した。また、利用者個々のニーズに沿って個別外出や地域活動等に合わせ利用調整を行い、楽しみや張り合いのある生活支援に努めた。
- ・通所介護サービス計画に基づき、家庭的な雰囲気の中で利用者の能力に応じた日常生活動作の継続支援や余暇活動、外出活動等を実施することができた。
- ・デイサービスを利用しながらグループホームへの入居を待つご利用者もおり、通い慣れた場所、馴染みの職員がいる環境へのスムーズな入居ができるようご家族との関係性を築いてきた。デイサービスから 5 名がグループホームへ入居となった。

資料<利用者の状況>

① 登録者数 単位：人（実数）

区分 年度	長岡市
R1 年度	10
30 年度	11

② 利用者数 単位：人（延べ数）

区分 年度	長岡市	稼働日数	1日あたり 平均人数
R1 年度	1,760	366	4.81
30 年度	1,156	365	3.16

③ 月別利用数 単位：人（延べ数）

R1 年度	月	4	5	6	7	8	9	合計	稼働率		
	人数	145	158	153	157	148	150			1,760	80.2%
30 年度	月	10	11	12	1	2	3				
	人数	144	149	140	135	136	145	1,156	52.7%		
R1 年度	月	4	5	6	7	8	9				
	人数	94	89	88	90	98	87				
30 年度	月	10	11	12	1	2	3			合計	稼働率
	人数	95	91	94	120	73	137				

④ 介護度別利用者数 単位：人（延べ数）

R1 年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	0	659	586	249	9	257		
30 年度	介護度	要支援	1	2	3	4	5	合計	平均 介護度
	人数	0	306	662	148	19	21		

2. ボランティア・実習生等の受け入れ状況

(ボランティアの受け入れ)

単位：人(延べ数)

区 分		R1 年度	30 年度	
ケアセンター 一花の里か つぼ	定期	個人ボランティア	33	28
		団体(グループ)ボランティア	164	216
	随時	個人ボランティア	3	3
		団体(グループ)ボランティア	29	56
		保育園・学校等	43	103
合 計		272	406	

(実習生の受け入れ)

受入事業所	区 分	R1 年度		30 年度	
		実人員	延日数	実人員	延日数
特養花の里 かつぼ	長岡こども福祉カレッジ専門 学校 (介護実習)	0	0	0	0
	新潟県社会福祉協議会 (福祉職場体験)	0	0	0	0
グループホーム 花の里かつぼ	北陸食育フードカレッジ (管理栄養士業務実践実習)	0	0	0	0
	新潟県認知症実践者他施設実 習 (認知症実践者研修)	3	3	3	3
	他施設依頼実習	0	0	1	4
合 計		3	3	4	7

3. 拠点委員会

① リスク管理委員会

・事故を未然に防ぐため、計4回の施設内研修を実施した。研修を通して、気付きが必要であること、気付いたことを発信する事で情報共有できる事を再認識でき事故を未然に防ごうという意識も高まった。また、アクシデント発生後、1週間後、3週間後の各検討会議を行うことで、対策の確認、再周知が出来た。あわせて事故防止マニュアルの見直しを行った。

② 食事サービス委員会

・検食簿の評価を行なうことで、安全・安心の食事提供を行なった。
 ・入居者に聞き取りによる食事満足度調査し評価を行った。要望については、その後の献立で取り入れ対応していくことができた。
 ・ふれあい畑で野菜を栽培し、収穫・調理を行ない、入居者と共に旬の味覚を楽しむことができた。

③ 感染対策委員会

- ・食中毒、感染予防研修、嘔吐物処理の方法について研修を行い意識向上に繋がった。
- ・インフルエンザ感染症について流行期に職員3人職員家族9名が罹患したが入居者に感染することなく施設内の蔓延を防止することができた。新型コロナウイルス対策としてマニュアルを作成し職員への周知徹底を図った。臨時感染委員会を開催し職員及び面会者へ手洗い、検温、マスク着用の声かけ等の働きかけを徹底し感染予防に対する意識を高めることができた。

④ 労働衛生委員会

- ・職員の定期健康診断を年1回（夜勤者は年2回）実施し、要医療の結果の職員には受診するよう声かけを行ない受診結果の用紙を提出して貰った。メンタルヘルスについてはストレスチェックの実施により自分のストレスの状態を確認してもらうことができた。ストレスコーピング研修を実施しストレスとの向き合い方を学ぶことができた。腰痛予防についての研修会を実施することができなかった。

⑤ 身体拘束虐待廃止委員会

- ・身体拘束防止と虐待防止に関する職員研修会を年2回実施し、職員への意識向上を図り理解を深めることができた。また入居者のベッド柵の必要性について見直しを行い、自立支援の為の補助具以外の不必要な柵の撤去に取り組んだ。
- ・グレーゾーンと感じるケアについて毎月ユニット会議で検討した。その結果全職員の意識付けが図れ、自分のケアを振り返るようになった。次年度も引き続き身体拘束に繋がり兼ねないグレーゾーンの事例集作成に取り組む。

⑥ 園芸委員会

- ・花壇整備として花壇のレイアウトの考案や日々の草取り、花がら摘みや切り戻し等を行うことができた。夏場の花壇の水やりは全職員協力のもと実施出来た。長岡市の花いっぱいコンクールでは昨年度に続き、職場の部で「優秀賞」を頂いた。

⑦ 防災委員会

- ・防災計画に基づき、初期消火訓練・放送設備訓練・緊急連絡網訓練等の部分訓練をはじめ、水害・土砂災害を想定した避難訓練や地震・火災を想定した避難訓練を年2回実施した。避難訓練では職員同士の声かけや連携内容に課題が挙がった。また、長岡市から外部講師を招き防災教育を実施し職員の意識や知識向上を図った。

⑧ 痰の吸引等安全対策委員会

- ・医師より痰の吸引の指示を受けている入居者は3人であった。職員に対して安全に痰の吸引ができるように実技研修を行なった。その他物品の点検、管理を定期的に行なった。

4. 苦情（意見）内容

令和1年度 0件

【シルバーハウジング生活援助員派遣事業】

市内3か所のシルバーハウジングに対し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、生活相談、安否確認や緊急対応などを行う「生活援助員（LSA）」を派遣している。（長岡市の受託事業）

平成31年4月1日～令和2年3月31日

シルバーハウジング稽古町

稽古町団地県営住宅のうち20戸（平成13年から）

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報	2	5	2	4	2				1	1	2	4	1
救急車手配												1		1
市役所連絡												1		1
家族連絡			1		1							1		3
医療・福祉機関連絡	1													1
その他														0
入退室状況	住替え(施設入所等)				1									1
	入院等		1		1								1	3
	他界		1											1
	その他													0

団地全体の高齢化が進み、シルバー外の入居者が福祉や介護の支援を受ける世帯が増えつつある。緊急通報システムが老朽化し誤作動も多数みられたことから、R2年3月に工事が実施され、最新設備が導入された。

平成31年4月1日～令和2年3月31日

シルバーハウジング千歳

千歳団地市営住宅のうち20戸（平成18年から）

緊急呼出し件数	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	誤報	2	0	2	0	2	1	0	1	1	1	0	0	2
救急車手配														0
市役所連絡														0
家族連絡														0
医療・福祉機関連絡														0
その他									1					1
入退室状況	住替え(施設入所等)													0
	入院等	1			1									2
	他界					1								1
	その他													0

全体的にトラブルも少なく落ち着いている。

平成31年4月1日～令和2年3月31日

シルバーハウジング稲葉

稲葉団地市営住宅のうち20戸(平成26年から)

	内容(対応)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
		緊急呼出し件数	誤報		1		1					1	1	
救急車手配														0
市役所連絡														0
家族連絡														0
医療・福祉機関連絡														0
その他					1									1
入退室状況	住替え(施設入所等)													0
	入院等					1	1	1				1	1	5
	他界													0
	その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

単身の要介護者の状態悪化により、誤報及び簡単な身の回りの援助があった。